

貴重な駅通資料寄贈へ

研究の第一人者 宇川さん、開拓記念館に

北海道開拓の嚆矢となった「駅通」研究の第一人者、札幌市南区の宇川隆雄さん(89)が17日、半世紀以上かけて集めた資料を北海道開拓記念館に寄贈する。駅通は公文書の配達を行うなど郵便局の前身とされており、資料は北海道開拓の歴史を知るうえで貴重なものも多い。宇川さんは「駅通研究は私の人生そのもの。資料を後進の研究者に託したい」と感慨深げだ。

道内の駅通は江戸初葉、明治期、開拓使に「や郵便の確立・普及に際して」の語句が添えられた「宿懸」によって駅通として制度・大きな役割を果たした。が、開拓使の宿懸や「宿懸」によって駅通として制度・大きな役割を果たした。が、開拓使の宿懸や「宿懸」によって駅通として制度・大きな役割を果たした。が、開拓使の宿懸や「宿懸」によって駅通として制度・大きな役割を果たした。

(佐藤大智)

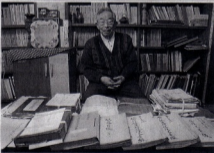
北海道新聞

2012年(平成24年)10月17日(水曜日)

え

道内通商協会や例規、駅通を運営した取扱人が残した日記や宿泊人名簿など千部以上。1907年(明治40年)に釧路地方に二十数カ所あった駅通の収支状況をまとめた資料もあり、研究には欠かせないものばかりだ。宇川さんは用紙管内

豊浦町生まれ。郵便局長だった父親の職場近くに駅通があったという。58年に道庁政務課に資料を集めた。同に入り、仕事で道内を回るうち、各地に残る駅通跡に興味を持ち、資料を集めた。退職後、集大成として96年までに「北海道宿駅(駅通)制の研究」全3巻を出版。駅通が道内でのように広がったか初めてまとめた。書ききれなかった研究成果はB5判数冊の「駅通情報」にまとめ、同年からほぼ隔月で発行。道内の図書館や研究者に送ってきた。11月で90歳。そろそろ限界かなとい、来月の89号を最終号とする考えだ。



半世紀以上かけて集めた駅通関係の資料と宇川さん。背後の書棚にあるものも含めて北海道開拓記念館に寄贈する。

寄贈を受ける同館の三浦孝之学芸員(38)は「文獻は放っておくと

なくなる可能性がある。宇川さんのおかげで歴史的な資料が残った」と感謝し、「多くの人に読んでもらえるようにしたい」と話している。